



「いつも」の取組みが 「もしも」の時につながる ～街まるごとフェーズフリー鳴門～



徳島県鳴門市危機管理局参事官補
黒濱 綾子

1 はじめに

徳島県鳴門市は四国の東端に位置し、関西方面からの交通アクセスの良さから四国の玄関口ともいわれています。総面積の6割を山地が占め、周囲を海に囲まれた、風光明媚な街ですが、南海トラフ巨大地震や中央構造線活断層による直下型地震などの災害が想定されており、最大震度6強から震度7の強い揺れと津波による甚大な被害が想定されています。そのため、防災・減災対策は、市の喫緊の課題でもありますが、これまでに甚大な被災経験がないこともあり、災害に備えることは難しいという意識もありました。

そこで、当市では、「日常」と「非日常」というフェーズの垣根を取り払い、私たちが「いつも」利用しているモノやサービスを「もしも」の時にも役立てる「フェーズフリー」の考え方を、全国の自治体で初めて「地域防災計画」に盛り込みました。また、総合計画や都市計画マスタープランなどの防災以外の計画にも盛り込んだことで、まちづくり全体にもフェーズフリーの考え方を取り入れ推進しています。

2 ハード面の取り組み

今回は、ハードとソフトの両側面から、鳴門市の取組みを紹介します。

まず、ハード面の取組みとして、ポートレース鳴門に併設されている「UZUパー

ク」を紹介します。UZUパークは、公共施設では初となるフェーズフリー認証を受けました。日常はスケートボードや国内最大級のボルタリングなどのスポーツを楽しむ場として賑わいを創出し、災害時には避難生活や復旧に関わる施設となっています。特にUZUホールの内観は、壁面が白と青の2色にデザインされており、津波浸水想定ラインを示しています。また、ボルタリングやキッズスペースのマットは避難者用のマットとして使われることも想定し



UZUホール壁面



UZUホール館内

ており、サイクルステーションに設置されたシャワー室は、災害時には無料開放します。

2つ目の施設は、道の駅「くるくるなると」です。2階の屋外芝生広場は、人工芝のスロープになっており、日常は多くの親子連れが、そり滑りをする等、交流の場でもあります。この屋外広場は、災害時、津波避難場所に指定しており、バリアフリーで24時間避難が可能です。また、1階の物産館やレストランは、地元の食材や加工品の品揃えを多くし、災害時には避難者へ物資を提供することとなっています。



道の駅「くるくるなると」芝生広場（津波避難場所）

3 ソフト面の取り組み

次にソフト面の取り組みとして、学校現場での取り組みやハザードマップ、周知啓発について紹介します。

当市では、各学校の教職員からアイデアを募集し、令和2年度に「いつもともしもがつながる学校のフェーズフリー」ガイドブックを作成しました。このガイドブックは市内の全教員に配布されており、フェーズフリーのアイデアコンテストが開催されるなど学校生活や授業の中にも防災の要素が取り入れられるようになり、防災人材の



学校のフェーズフリー

育成にも寄与しています。

また、ハザードマップは、普段から手に取ってもらえるよう、地図に登山口や登山道を表示し、ウォーキングや街歩きをしながら避難場所の確認ができるように見直しを行いました。

なお、周知啓発にも力を入れており、特に防災に関心がない方たちにもフェーズフリーの考え方を知ってもらい、実際に商品を見て、手に取ってもらう機会の創出や、災害時に連携する企業や団体と日常から顔の見える機会をつくることを目的に「フェーズフリーフェスティバル」を開催しています。

4 フェーズフリーで目指す未来

当市では、このような取り組みを推進することで日常生活の質（QOL）を高め、市民の皆さんが自然と災害から守られている状態をつくりたいと考えています。そのことにより、鳴門市が住みやすく、活気のあるまちとなり、また災害にも強いまちを目指しています。